

新成長戦略研究「新たなウナギ産業の創出」 (資源に配慮したウナギ養殖技術の開発)

(予算区分 新成長戦略研究 研究期間 平成 25～27 年度)

担当：水産技術研究所 浜名湖分場

青島秀治・山内悟・田中寿臣・霜村胤日人・上原陽平

【研究の背景とねらい】

水産技術研究所では、ニホンウナギ種苗の減少に対する対応策として異種ウナギの養殖技術確立に取り組んできました。しかし、ウナギの資源は、平成 26 年 6 月に国際自然保護連合が絶滅危惧種に指定するなど、ニホンウナギに限らずウナギに対する国際的な資源保護対策が求められるようになってきました。

そこでニホンウナギ、異種ウナギともにその資源を有効に利用することを検討しています。

【これまでに得られた成果】

(平成 25-26 年度の成果)

- ・ モザンビカ種(マダガスカル産)やアメリカウナギ(米国産)の成長は、ニホンウナギと同様の方法で飼育した場合、ニホンウナギよりも遅いことが分かりました。さらに、500 日以上飼育しても、蒲焼として出荷する大きさ(200～250 g)に満たないウナギが多くみられました。
- ・ バイカラ種(フィリピン産)は、ニホンウナギと同様の方法で飼育した場合、ニホンウナギと同等に成長することが分かりました。
- ・ バイカラ種の養殖適性水温は、一般的なニホンウナギの飼育水温(28～30)よりやや低い 26～28 であることが分かりました。また、バイカラ種の適性給餌率は小型サイズでは 2.5～4.0%程度、中型サイズは 1.5～1.7%程度であることが分かりました。
- ・ シュードダクチロギルス症(寄生虫症)に感染したモザンビカ種の治療法として、ニホンウナギで実施されている 35 への昇温が有効であることが明らかとなりました。昇温期間は 2 週間程度とニホンウナギより長い期間が必要ですが、異種ウナギに対しても本治療法が利用できることが明らかとなりました。



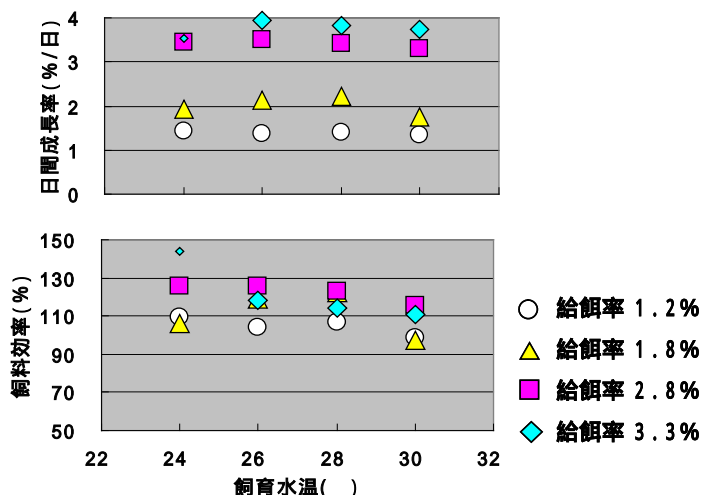
バイカラ種ウナギ

【期待される成果】

世界に生息するウナギの限りある資源に対し、1 尾のウナギの有効利用を図ることで、資源を維持しつつ、新たなウナギ産業を喚起するとともにニホンウナギの養殖及び食文化を後世に伝えます。

【今後の計画】

蒲焼きサイズより大きなウナギを利用するため、魚種ごとあるいは雌雄による成長の違いを明らかにし、生産サイズの大型化の可能性を検討します。



バイカラ種(平均体重 7.5 g)の日間成長率と飼料効率
 マーカーの小さな水温 24 ・給餌率 3.3%は、
 試験途中で残餌が発生

(作成 平成 27 年 4 月)